様式６号の７

学番	７３	県立有恒高等学校

令和８年度　学校自己評価表（計画）

学　校　運　営　計　画

学校運営方針	**増村朴斎先生の建学の精神に則り、徳性を涵養し進んで社会に貢献する人材を育成する。** １ 基本的な生活習慣の確立と学習習慣の定着を目指し、自律した生徒を育成する。 ２ 生徒の進路実現に向け、個に応じたきめ細やかな支援をする。 ３ 小規模校の特色を活かして、生徒一人一人の人格形成を目指し、豊かな人間性を育む。 ４ 母校愛と地域理解を深めるとともに、同窓会や地域との連携を図り、社会に貢献する人材を育成する。 ５ 教職員の働き方を見直し、生徒に対して効果的な教育活動を行う。
育成を目指す資質・能力に関する方針 （グラデュエーション・ポリシー）	①確かな学力を身に付け、主体的に学び続ける態度を育成します。 ②他者と協働しながら、粘り強く課題に取り組む力を育成します。 ③自他の違いを理解し、多様性を尊重し、互いを認め合う態度を育成します。 ④基本的生活習慣を確立し、自律した行動ができる人間を育成します。 ⑤地域社会に関心を持ち、地域課題の解決をとおして地域に貢献する人材を育成します。
教育課程の編成及び実施に関する方針 （カリキュラム・ポリシー）	①１学年に学校設定教科「マルチベーシック」による「学び直し」の時間を確保し、基礎基本の習得を目指した学習を行います。 ②『学び合い』による協働的な学習とタブレット端末等のＩＣＴを活用した学習で、主体的で対話的な授業を展開します。 ③各教科の学習指導と学校行事等の特別活動において、作品制作や観察・実験等の創造的、体験的な活動に取り組みます。 ④地域の諸課題について探究的な活動に取り組むとともに、地域と連携して外部人材を活用した専門的で深い学びの学習に取り組みます。 ⑤「あいさつ運動」や「コミュニケーション講座」など学校生活全般や特別活動をとおして、社会規範やマナーの習得に取り組みます。
入学者の受入れに関する方針 （アドミッション・ポリシー）	①自己実現に向け、主体的に学び続けようとする生徒 ②自己を理解し、他者を尊重し、周囲とのコミュニケーションを大切にしようとする生徒 ③社会や学校のルールを守り、学校生活を充実させようと努力する生徒 ④地域社会の課題に関心を持ち、積極的に地域に貢献しようとする生徒

昨年度の成果と課題	令和８年度の重点目標	具体的目標
（生徒指導） 全体的には規範意識が向上しているが、注意された時だけ・検査の際だけ改善する生徒や繰り返し指導される生徒がいる。身だしなみ・服装指導やスマホ指導は改善されるまで、粘り強く継続していく必要がある。 玄関指導では、挨拶に重点をおいて指導していくことにより、挨拶を日常的に進んで行う生徒をもっと増やすように努めていく。 清掃や奉仕活動などにきちんと取り組む生徒は多い。今後もよりよい学習環境を整備することができるよう指導していく。 ＳＮＳに起因した人間関係のトラブルが起きないよう、意識啓発に努めるとともに、いじめ対策委員会と連携しながら適切な指導を早期に行っていく。 （進路指導） 進学では、短期大学２名を含め進学希望者全員が１月までに志望校に合格することができた。就職では、一次応募で希望者全員内定を得ることはできなかったものの、１２月までに内定を得ることができた。 進学では、学校推薦型選抜（推薦入試）や総合型選抜（AO 入試）による合格が大半を占めている。大学入学共通テストや一般選抜受験者と同等の実力をつけ進学させることが課題である。 就職は、生徒自身が、自分の適性・能力を把握し主体的に企業選択を行い、面接指導などの準備を早めに進めるように指導していく。 （学習指導） マルチベーシックを始めとした授業で基礎学力の定着と向上を図っており、課題提出を通して学習習慣の定着を目指している。様々な学習歴を持つ生徒に対応するための授業改善と、新学習指導要領に合わせた評価方法が課題である。各教科で指導内容や指導方法を検証し、生徒の主体的な学びや協働的な学び及びユニバーサルデザインを意識した工夫改善を行うなど、引き続き授業方法や教材の研究に取り組み、望ましい評価方法を確立する。	教科指導の充実による基礎学力の定着と生徒の主体的な学びを実現し、学習習慣の定着を図る ［１］	・学習習慣を身に付けさせ社会で必要な基礎学力の定着と向上を図る。 ・ＩＣＴの活用や「学び合い」による授業改善により、生徒が主体的に学ぼうとする授業を実践する。 ・観点別学習状況の評価における総括から指導と評価の改善を行う。
	基本的生活習慣の確立と規範意識の向上により安心安全な学校環境の充実を図る ［１，３］	・基本的な生活習慣を身に付けさせ、規律ある学校生活をとおして、意欲的に学習に向かう姿勢を定着させる。 ・教育相談体制を充実させるとともに、校内の組織的な対応及び外部専門機関等との連携により、安全・安心な学校環境を整える。 ・見直した校則について全校でその意味や意義を共有し、規範意識を醸成し、自律した態度を育てる。
	キャリア教育の推進と進路希望の実現 ［２］	・進路希望達成に向けた取組を充実させる。外部機関やジョブコーディネーターとも連携し、生徒の個々の実現を目指す。 ・自己の生き方、社会との関わりについて探究的に考える姿勢を身に付けさせる中で、進路意識を高め、進路目標を明確にし、進路希望を実現できる力を育成する。
	生徒会活動により社会性や豊かな人間性を育む ［３］	・生徒の主体的な活動を支援することで生徒会活動を活性化し、人間的な成長を促す。 ・小規模校の利点を活かし、一人一人が主役となる活動から自律や協働性を育成する。
	保護者や同窓会、地域等との連携を強化する ［４］	・「総合的な探究の時間」や学校行事等を通じて、保護者や同窓会、地域の方々との連携を深める。 ・各種たよりやホームページなどを充実させ、学校の教育活動の情報発信に努めるとともに、学校案内、学校説明会などの内容改善を行う。 ・学校行事や特別活動を通じて「三綱領」・「五学規」の内容を理解させる。 ・地域課題を探究することで、自己の在り方を考え、社会のなかで適正に自己実現できる資質・能力を育成する。

重点目標	具体的目標	具体的方策		評価		
教科指導の充実による基礎学力の定着と生徒の主体的な学びを実現し、学習習慣の定着を図る	社会で必要な基礎学力の定着と向上を図る。	①生徒の学習状況や特性を踏まえ、基礎的な学力が身に付くよう教材の工夫をする。	各教科			
		②ＩＣＴを活用した授業改善や「学び合い」による協働的な学びを取り入れた授業を実施する。				
		③授業アンケートや互いに授業を参観することなどをとおして、指導方法の工夫・改善をする。				
		④マルチベーシックの授業において、基礎学力の定着に必要な指導を丁寧に行う。	数学 英語			
	主体的に学ぶ意欲の向上を図る。	①授業における目標と、その目標に到達するための道筋を示すことにより、生徒が意欲的に学びに向かうよう指導する。	各教科			
		②基礎力診断テストや事前・事後指導をとおして、学習のつまずきを確認するとともに、継続して学習することの重要性について指導する。	各学年			

基本的生活習慣の確立と規範意識の向上により安心安全な学校環境の充実を図る	保護者と連携し、基本的生活習慣の確立及び身だしなみの徹底を図る。	①朝の玄関指導を年間４回実施し、時間を守る意識を高める指導をする。	生徒指導部			
		②服装頭髪検査を年間９回実施し、生徒としてふさわしい身だしなみを身に付けさせるよう指導する。				
		③全校集会や玄関指導等をとおして挨拶の励行について指導する。				
		④生徒の欠席、早退、遅刻の把握に努めるとともに、規則正しい生活を送るよう集会やホームルームで指導を継続的に行う。				
	規律ある学校生活を送らせ、落ち着いた学習環境を整える。	①スマホに関する約束きまりを徹底させ、係指導を受ける生徒を前年度よりも減らす。				
		②機会あるごとに学年やクラスの状態を確認し、学年と連携しながら必要に応じ学年集会等で指導する。				
		③生徒や保護者、地域の方が参加する形で校則の見直しをおこない、規範意識の向上に努める。				
	交通安全指導を推進する。	①バイク実技講習を年間２回実施する。				
		②交通講話を実施する。				
		③事故、違反が発生した場合、直ちに全体指導や個別指導を行い、再発防止に努める。				
	心身の健康の保持・増進を図り、主体的に健康な生活を送るための実践力を育てる。	①健康診断を確実に実施し生徒の健康実態を把握するとともに、必要な治療・検査を促す。	保健			
		②健康課題の把握に努め、課題解決のための健康教育、保健指導等を実施する。 １年生：食に関する講演会 ２年生：エイズ・性感染症予防講演会 ３年生：性に関する講演会、薬物乱用防止教室				
		③定期的に保健だよりを発行し、健康への意識向上のための啓発を行う。				
	特別支援教育コーディネーターを中心に外部機関とも連携し、生徒の情報共有を図り、人間関係作りや個別支援を組織的に行う。	①月１回の情報交換を行い、組織的に対応する。	教育相談			
		②週１回定期的にスクールカウンセラー（ＳＣ）が来校し相談に当たる。外部専門機関と連携した支援体制を整備する。				
		③面談週間で全生徒への面談を行い、支援の必要な生徒や、悩みを抱える生徒の把握に努めるとともに、必要に応じて個別支援計画を作成する。				
		④教育相談にかかわる研修会を実施する。				
		⑤ｈｙｐｅｒ－ＱＵを年２回実施し、生徒の実態把握に努める。				
	いじめの早期発見とその後の迅速な対応により実態の把握に努め、適切な対応を組織的に行う。	①いじめ防止委員会でいじめアンケート（学校生活アンケート）を実施し、情報共有に努めるとともに、いじめ対策委員会で必要な対策について検討するなど、組織的に対応する。	いじめ防止委員会			
		②ＳＮＳ教育プログラム、ＳＯＳの出し方に関する授業等を実践し、いじめの未然防止等に努める。				
	校舎内外の美化に努める。	①日頃の清掃を徹底する。また、屋外清掃や大清掃を実施し、校舎内及び校地全体の美化に努める。	美化			
キャリア教育の推進と進路希望の実現	キャリア教育を推進し、進路意識を高める。	①各学年の進路指導部を中心に学年と進路の連携を図り、生徒全員に年５回以上の進路ガイダンス、進路全体指導などを行い、進路意識を高める。	進路指導部			
		②１年生の企業見学、２年生のインターンシップ等を実施し、進路希望を具体的に検討し、決定するよう指導する。				
		③進路の手引きを作成し、進学や就職の流れや必要な準備について指導する。				
		④進路指導室内の資料を整理し、進路に関わる必要な情報を確実に伝える。				
	進路希望の実現を図る。	①進路希望調査や面談などにより生徒の進路希望の把握に努め、各学年、必要に応じてジョブディネーターと連携して指導、支援を行う。				
		②面接指導や小論文指導を計画的に実施する。				
生徒会活動により社会性や豊かな人間性を育む	生徒の主体的な活動を支援することで生徒会活動を活性化し、人間的な成長を促す。	①各種生徒会行事を執行部が中心に主体的に計画立案し、準備・運営を行う。	生徒会			
家庭や同窓会、地域に対して本校の教育活動を積極的に公開するとともに、連携を更に深める	ＰＴＡ活動の更なる活性化を図る。	①PTA 総会と併せて、保護者ニーズに応えられる説明会・講演会を実施し、保護者と学校の協力体制づくりを強化する。	教務部			
		②PTA による各種の主催・共催行事への参加率を上げる。				
		③PTA だよりの内容を充実させ、広報活動を活発にする。				
	同窓会との連携を深める。	①朴斎忌講演会を開催し、同窓会と連携する中で生徒の本校への理解を促す。	教務部			
		②朴斎記念館での学習を通じて創立者についての生徒の理解を深める。	１学年			
	各種たよりやホームページなど学校からの情報提供に努めるとともに、学校案内、学校説明会など工夫改善を行う。	①ホームページなどを活用して、積極的に情報発信を行う。	教務部			
		②中学生体験入学で十分なアピールができるよう、学校説明や体験授業などの内容を工夫する。				
成果					総合評価	